

## 2期目の主な具体的な取組

### 1 働く世代の元気

「まちを引っ張る産業の振興」

- データの活用型  
(べぶドックや営農支援 AI 等)
- 国内外市場への農産物加工品販売実証
- ワーキングホリデー (体験型就労) の実証実験
- 病児・病後児保育の導入
- 商店と買い物弱者を結ぶ宅配システムの構築



### 2 子どもの元気

「子どもの成長環境を整え、  
社会で活躍できる人材育成」



- 放課後子ども見守り活動拠点整備
- 保育園留学、親子山村留学の拡充・連携
- キャリア教育 (先端技術含む) メニュー拡充

### 3 高齢者の元気

「安心して暮らせる助け合いと健康寿命の延伸」

- ノウフク連携への参加事業者拡充
- 下駄ばきヘルパーの拡充
- 認知症フレンドリー事業の継続、強化

### 4 自然・環境の元気

「水資源、海を守るため、

森と里山の維持・再生」

- 森林ビジョンの策定
- 海の森づくりの実証実験



### 5 地域の元気

「自治会・公民館と一体になった安心安全な地域」

- 小学校跡地の魅力化プロジェクト
- 新肝属郡医師会立病院整備完工と開院支援

式会社と大隅森林組合の3社で「森林に関する包括連携協定」を締結。伐採跡地を日本森林アセットが購入し、錦江町が再造林促進のための費用を一部助成し、大隅森林組合が再造林していく仕組みづくりを行ったこと。

1期目の反省点としては、人口減少の緩和が難しかったこと。「転入と転出を同数に」という目標を掲げていましたが、移住者やUターン者を含めて、就学、就職による転出をカバーできず、直近で70人の減少となりました。

ローカルベンチャースクールや畜産を中心とした産業基盤の強化、事

業継承の支援など、「稼ぐ力」をさらに強化しなければならないと痛感しています。

——2期目の重点テーマとは

1期目の継続事業としては、子育て施策として、大根占小学校と神川小学校区に子育て支援住宅の建設を、働く親世代の支援として、病児・病後児保育施設の整備をしていきます。

地域交通対策としては、1期目で整えたあいのりタクシー制度の内容拡充と買い物弱者対策として、商店と買い物弱者を結ぶ宅配システムの構築、安心な暮らしを支える医師会立病院の早期完成を目指します。

また、担い手不足対策として、体験就労のワーキングホリデーの実証実験に取り組み、外国人材を含め、新たな働き方と錦江町暮らしの体験メニューを整えてまいります。

同じく継続事業として、保育園留学と山村留学を充実させるとともにキャリア教育を拡充し、少子化の中でも、共に暮らす仲間づくりを進めます。

——町民の暮らしはどう変わる

これまでの農林水産業の振興に加え、既存の産業分類によらない「新たな稼ぐ力」を支援することで、安定した経済を作り、他の自治体にな

い英語教育やキャリア教育の充実や医療環境の向上など、安心して暮らせる環境を実感していただきたいと思っています。

目に見えて、町民さんの暮らしが大きく変わることはいかもしれません。人が、人に投資することを続け、町民さんが「小さな幸せ」を感じられる町を作っていきたいです。

——2期目に臨む覚悟、原動力

茶業や畜産業、子どもたちのキャリア教育、英語教育など、町に新しい兆しが見えてきていることが、非常に嬉しい。これまで皆さんが努力されてきた結果だと思っています。

「人に投資する」「それぞれの人が小さな幸せを感じていただける町をつくる」これが町長としての責務です。第3次総合振興計画は10年間の計画ですが、5年間である程度の形を創りたい。計画をしっかりと実現していきます。

私の原動力は「人の笑顔」です。すべての人の笑顔が、町を預かるものとしては力になっています。その笑顔が未来へつなぐため、対話を重ねながら、誰もが安心して暮らし続けられる錦江町を目指し、歩み続けます。

決断し、進める。新田町長が描く次の四年——

それぞれの人が「小さな幸せ」を感じられる町をつくること、  
それが町長の責務。

## interview

錦江町の未来のために、いま、伝えたい想いとは。

町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年12月14日に執行されました錦江町長選挙におきましては、二期目の町政運営にあたり、町民の皆さまからこれまでの取り組みに対する信任を賜り、無投票により引き続き町政を担わせていただくこととなりました。あらためて町民の皆さまの期待の重さと責務を深く受け止め、身を引き締めて、錦江町のさらなる発展に向け、全力で取り組んでまいります。

### 1期目の成果と課題

1期目で特に手応えを感じた施策は次の4点です。

①担い手不足解消のための特定地域づくり事業協同組合を令和5年5月21日に発足させ、現在11事業者、6人の社員の短期就労での派遣をしていること。

②関係人口増加のため、2週間を上限とした滞在期間での保育園留学を令和5年度から始めたが、反響が大きく、令和6年度は親子で118人の来町があつたこと。

③認知症になっても安心して暮らせるまちづくりのため、自己選択、自

己決定を基本としたゆうゆうカフェで、小売店の商品陳列や雑巾づくり、町産材を活用した積み木づくりなど、活動の幅が広がってきたこと。

その取り組みが社会的に評価され、令和6年12月にはNHKと同厚生文化事業団の認知症とともに生きる町大賞、令和7年12月には九州厚生局の地域共生社会推進大賞(市町村部門)を受賞したこと。

④利用期(植林から50年以上)にきている森林の伐採が進む中、町内の再造林(令和6年)率は35%と低迷。国土保全や水源涵養、二酸化炭素の吸収など、多面的機能を持つ森林の維持が困難になる中、令和7年10月に住友林業系の日本森林アセット株

## PROFILE

新田 敏郎 (しんでん・としろう)

1965年生まれ。南大隅高校卒業後、旧大根占町役場へ入庁。総務課長や政策企画課長を務め、令和3年3月に退職。「情熱まっすぐ」をキャッチフレーズに掲げ「人への投資」と5つの元気を公約で訴え令和3年11月28日に行われた錦江町長選挙で初当選。二期目となる町長選挙では無投票で再選を果たす。錦江町馬場在住の60歳。

錦江町長

新田 敏郎